赤ちゃんの四季（66）　平成29年夏

子は天から授かった大切な宝

このたび、神戸市総合福祉ゾーン「しあわせの村」にある重症心身障害児者入所施設「にこにこハウス医療福祉センター」の運営に携わることになりました。私が大学病院時代に診せていただいたお子さまが、当センターで生活しておられ、お母さまにもお会いし、たいへん懐かしくお話ししました。

戦後間もない私がまだ小さい子どもの頃、いつも家の中に籠りきりの障害をもつ子が近所に住んでいました。あるとき、母が私に話してくれた「あの子は家中で一番立派なお部屋で、あの子だけが白いごはんを食べ、だれよりも大切にされているの。あの家の宝ものなのよ。」という言葉を忘れることができません。

障害者の笑顔や全身で表現する「いのちの輝き」は、周りにいる家族や私たち施設職員に、「生きる」大きな希望と幸せを授けてくれるのを体感し、自分がその場に居合わせることに感謝する日々です。

当センターは、神戸市唯一の入所施設として、また、生活介護や短期入所などを通じて在宅支援事業を進めています。

当施設がもつ使命は、「重症心身障害児者の生命を守り、ひとりひとりのライフステージに応じた利用者サービスの展開」にあり、「障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う共生社会」の実現を目指しています。

多くの方々は、障害者施設の実態についてあまりご存知ないと思います。利用者をはじめ、ご家族、職員の皆さんが、これほど明るく、元気に過ごしている姿を、広く社会に発信していくのが、これからの私の役割です。